

「ZAIDAN Report」第12号では、「特定非営利活動法人 いきいきムーン」様の活動をご紹介します。

「(2023年度)助成先団体の事業の成果」として、既に当財団の公式サイトにてご紹介させていただいた、「特定非営利活動法人 いきいきムーン」様に取材を行い、助成金の活用状況や成果、助成実施から2年間経過した現在の状況等をご紹介します。

## 「特定非営利活動法人 いきいきムーン」様についてご紹介

### <活動の理念>

- 【テーマ】 - 組織における「ニューロダイバーシティ」(\*)の理解と雇用促進 -  
【手法】 - 当事者だけでなく、養育者・支援者・雇用者のオープンダイアログを通しての相互理解 -

- 当団体は、2019年3月に日本キャリア開発協会(JCDA)の研究会として発足し、研究期間終了後の2023年3月にNPO法人を設立し活動を展開しています。
- 2025年3月までの6年間で94回の「自助会」やセミナーを開催し、1,910人の発達特性の凸凹の差の大きい当事者・養育者・支援者・雇用者などの参加者が相互理解を深め、インクルーシブ社会(\*)の実現を目指しています。
- 2024年2月に代表理事の著書「はたらくみんなのニューロダイバーシティ～対話からはじまる発達特性あふれる組織改革論」が精神医学/臨床心理学専門の金剛出版から刊行され、精神科医や臨床心理士などから高い評価を得ています。

### 【ボランティアスタッフのみなさん】



### 【代表理事の著書】

「はたらくみんなのニューロダイバーシティ」



### (\*)「ニューロダイバーシティ(脳の多様性)」

ADHD・ASDといった発達特性を『人間のゲノムの自然で正常な変異』としてとらえ、環境を本人の特性に合わせていくことで、全ての人が能力を発揮できる社会を実現する考え方です。

具体的には「顔や体格が生まれつき違うように、脳も一人ひとり違い」、「人間誰しも能力の凸凹があり、また見え方・感じ方も千差万別である」ため、「お互いの個性を尊重し、活かし合えるような環境をつくることで、すべての人の凸凹が活かされる社会を実現することが出来る」というものです。



### (\*)「インクルーシブ社会」

性別、人種、国籍、障がいの有無などにかかわらず、あらゆる人が排除されることなく、違いを認め合い、尊重し合いながら共に生活し、参加できる社会のことです。

この考え方は、多様性を認め尊重する「ダイバーシティ」の概念をさらに進め、違いを受け入れて活かす環境づくりに焦点を当てたもので、多様な人々が包括的に共生できる社会を目指すものです。

## 「自助会フェスタ」について

### 「自助会」とは

- 「自助会(または自助グループ)」とは、発達障がいを発現した人と、養育者・支援者・雇用者など、共通の問題を抱えた関係者が集い、対話・交流する助け合いの場のことです。
- 「いきいきムーン」では、これまで延べ2,000人以上の人たちと対話をしてきました。

### 「自助会フェスタ」とは

- 全国から
    - ①発達障がいの当事者及び家族
    - ②「自助会」を主宰している人・これから主宰したいと思っている人
    - ③「自助会」に参加したいと思っている人
- が集まり、誰しもが持っている発達特性や価値観を、対話を通じて相互理解ができる「自助会」が、重要な社会資源であることを理解していただき、これを広めることを目的に開催しています。
- また、併せて、この「自助会フェスタ」にボランティアスタッフとして協力いただいた、「自助会」の主宰者や参加者・支援者に対する今後の支援体制構築の起点としても位置付けています。

### 【「自助会」の開催風景】





## 助成金の活用状況・成果

- 誰一人として排除しないインクルーシブ社会を体験できる社会資源である「自助会」の、参加者や主宰者を増やすための「自助会フェスタ2023」を、2023年11月11日に大阪市中央区民センターにて開催し、
  - ①DDAC発達障害をもつ大人の会代表の広野ゆい氏の1st STAGEには268人、
  - ②大阪大学大学院連合小児発達学研究科教授の片山泰一氏の2nd STAGEには199人、
  - ③さかいハッタツ友の会代表の石橋尋志氏の3rd STAGEには274人と、日本全国から延べ741人の参加者を得ることができました。
- ここで、医療機関や支援機関では低減できなかった当事者の「生きづらさ」を、「自助会」で低減できた例が多数あることが報告されるとともに、多様な背景を持つ参加者同士の相互理解が進み、「自助会」がインクルーシブ社会を体験できる社会資源であることの認識を広めることができました。
- また開催終了後、
  - \* 当事者からは、
    - 「1回だけではなく、「自助会」に継続的に参加することで孤独感や絶望感が軽減された。」
    - 「「自助会」でロールモデルに出会うことができ、生きる勇気が持てた。」
  - \* 養育者・支援者・雇用者からは、
    - 「上下関係のない「自助会」に参加したことで、アドバイスが価値観の押しつけであることが理解できた。」
 などの声が寄せられました。

【「自助会フェスタ2023」のポスターとリーフレット、バッジ】



【「自助会フェスタ」の風景】



【コメントーターのみなさん】

## 助成から2年経過した現在の状況

### 自助会フェスタ2024

- 2024年11月3日に、スペシャルコメントーターに大阪大学大学院連合小児発達学研究科教授の片山泰一氏を招聘し、NPO法人障がい者就労支援事業アンカー、株式会社Kaizen、株式会社CLANの3社の就労移行支援事業所の支援者と利用者の相互理解を深める「自助会フェスタ2024」を開催しました。



### 自助会フェスタ2025

- 2025年7月20日に、スペシャルコメントーターに京都府立大学文学部准教授の横道誠氏を招聘し、日本全国各地の15人の自助会主宰者と参加者の相互理解を深める「自助会フェスタ2025」を開催しました。



### 「いきいきムーン(自助会)」の地方開催

- 「自助会フェスタ2023」に参加された方々から地元開催の要望があったため、2024年8月17日に福岡県で、2024年10月19日に新潟県で「いきいきムーン(自助会)」を開催しました。

【福岡会場のコメントーターのみなさん】





#### セミナー開催

- 様々な福祉サービス事業所で働く臨床心理士・精神保健福祉士などの支援者、あるいは企業の人事担当者向けの「ニューロダイバーシティセミナー」や「オープンダイアログセミナー」を開催しました。

#### 講談社の「現代ビジネス」掲載

- 2025年に入り、第一線で活躍するビジネスパーソンやマネジメント層向けのメディア「現代ビジネス(講談社)」で、「いきいきムーン」が開催している「自助会」が社会資源である旨の記事が複数回掲載されています。

#### 今後の抱負など…

- インクルーシブ社会の実現には、日進月歩で変化している最新の「脳神経科学」や「精神医学」の周知も不可欠であるため、この2つをテーマにした「自助会フェスタ2026」の開催を検討しています。
- また、「ニューロダイバーシティ」の概念の下、発達特性の凸凹の差の大きい当事者に行動変容を促すのではなく、養育者・支援者・雇用者の意識変容を促す事業の推進を、具体的には養育者支援の「ペアレント・プログラム」、支援者や雇用者を社会の抑圧から守るための支援者・雇用者支援の「リスキリング・プログラム」の構築を検討しています。
- 併せて、当団体を継続的に助成していただける企業・団体の模索と、当団体自体が金銭的に自立するための事業活動を検討しています。